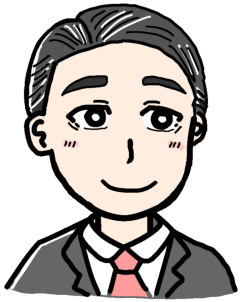
# 2024.1/17 第6回 信州学び円卓会議 県民意見交換会 in信州大学教育学部



オブザーバー
長野県知事
**阿部 守一**

## テーマ
## 教員の魅力と私たちが考える教育の未来

「理想」と「乗り越えるべき壁」を共有し合う！

学校教員は関わる方々
みんなで変えていく必要がある

たくさんの
ステークホルダー

子ども　先生　保護者　行政　委員会

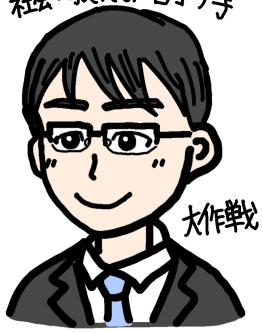
いっしょに考える
＝作戦会議

全体セッション　モヤモヤ　願い　自己紹介から

アルクマ

円卓会議運営委員

社会・教育の創り手　教育は創っていくもの

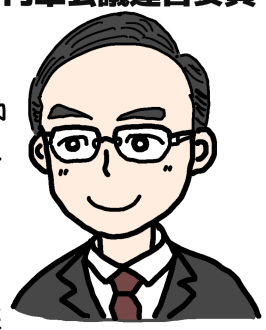


信州大学教育学部長
**村松 浩幸**

大作戦

信州大学教職支援センター 准教授
**荒井 英治郎**

働きがいと働きやすさ



上田市立第五中学校長
**畠山 正幸**

## グループワーク①

あなたにとっての「こんな教員になりたい」
「こういう教員が増えてほしい」
「こういう教育・学びが拡がってほしい」
という願いは？

○自由な学びを尊重 ↔ 遊び

↓

一人一人の個性を認め、向き合える（寄り添う）

↓

新しいことに挑戦 → 経験

↓

社会で必要な力　働きがい　働きやすさ

↓

授業づくり

× 監視者
○ 協力者
地域と共に

待てる
＝
精神的
時間的な
ゆとり

安心・安全
居場所

## 転換期を迎えている「教育実習」

信州大学教育学部附属長野小・中・特別支援学校
北澤 嘉孝 校長

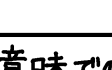
→ 4割が迷っている
→ 対話の時間（講話からの転換）

ICT・授業準備↑
連携の強化

志望者の増加（不安↘）

仕事
生活

○周辺参加（初任者のカベ）
○プレッシャー↘
ハードル↘
○TTなどチームで
○不断の見直し



本当の意味での楽しさ → 明日来たいと思える学校

## グループワーク②

教育・学び、そして教員に関して「なんでこうなんだろう」
「もっとこうだったらいいのに」「こんなことができたらいいのでは？」と思うこと

教員の余白を確保（ゆとり） → 子どもに向き合う ↔ 先生1人で見る子どもの多さ…

↓

私生活が成り立つ

挑戦できる

入試や評価のための学びからの脱却

↓

限りあるリソースの活用

学びへの意識をアップデート

学校と保護者がお互いの状況をよく知る

連携

悩みも含めて

教員同士の相互理解

↓

学生ももっと学びやすく！

× やらされる

一方的ではなく、子どもたち自身が楽しめる！

興味や学びの美しさにもっと触れる

時間割も選択

探求

## まとめ

- 子どもも、教員を目指す学生も、これからの社会の「創り手」となる存在。
- 子どもと一緒に学びを創り、楽しめるのが理想の教員！
- そのためには、教員個人や学校に過度な負担がかからないよう、地域や保護者との連携を深めることや、入試制度を見直すことが重要。